

調査団報告書

調査No.67

調査内容

名古屋凧という凧があると聞きました。その中に蛤（はまぐり）に入るぐらい小さい凧があると聞いたのですが、その凧の写真を見ることはできますか？

調査手順

名古屋凧ってなんだろう？蛤に入るぐらい小さい凧って、どれぐらいの大きさなのかな？

『凧大百科』に名古屋の凧というページがあり、名古屋の凧の種類などが書かれている。「名古屋の紙鳶（いか）」という資料から引用されているようだ。引用されている「名古屋の紙鳶」はないかと探してみると、『伊勢と名古屋』という資料の中に「名古屋の紙鳶」が入っていた！紙鳶は凧のことで、寛永年間（1624-43年）からある最も古い凧に「ベガ」という種類の凧があり、「蛤ベガ」は蛤の貝の中に入るほど小さく、極めて精巧に出来ているらしい。『凧大百科』には蛤ベガの写真もあった！でも、大きさはわからない。『名古屋古流凧』にも蛤に入った凧の写真を発見！名称は「蛤虻」で大きさは一寸六分、重さは0.3グラムとあった。一寸六分は約4.8センチだとわかった。

調査結果

蛤の中に入る凧はあった。「名古屋の紙鳶」には、戸崎さんという名人が、お客さんが来ると貝から凧を取り出し、火鉢の上へかざして、火気に煽られ揚がったと書かれている。『凧大百科』『名古屋古流凧』『ぼくたちは何を失おうとしているのかーホンネの生物多様性ー』という本の中に蛤の中に入った凧の写真を見ることができる。

名古屋古流凧は、寛永年間（1624-43年）からある凧で、大人の遊びとして発達し、季節関係なく揚げられていたようだ。蟬や虻、蜂、福助などの形があったようだ。ベガという種類は、名古屋紙鳶の祖先といわれている。『尾張名所図会』の「富士見原」には凧を揚げている人々が描かれており、虻の凧も確認できる。

今回の調査で使った資料

『凧大百科』比毛一朗/著 美術出版社 1997

『名古屋と伊勢』博文館 1902

『名古屋古流凧』佐藤昌明/著 佐藤昌明 1994

『ぼくたちは何を失おうとしているのか』関口威人/著 人間社 2010

『尾張名所図会 卷二』岡田啓/著 野口道直/著 1880

